

成年向け

アジバヤシ
Aji Bayashi

2

日
生

十

五

く
す



星
く
ず
☆
ナ
ミ
ダ
2

日
生
く
あ
☆
十
五

2





一緒に風呂
に入る？

卒業式の前日：
俺と桐乃はセックスをした

「どんな顔で話せば
良いかわかんない」
なんて言っただけに
あのとときの桐乃は
全然いつも通りで：



冗談？

結局一緒に風呂には入れず
しまったよ：

でも俺は：そんな桐乃の
態度を見てホッしていた

もし桐乃とギクシヤク
したままになってたら
結婚式どころじゃ
なくなってたからな：



翌日も桐乃はいつも通りで：
見たらどう？
麻奈美に対するあの悪態を：

麻奈美が殴ったのも
まあ必然だよな
めっちゃやそりやあ
めっちゃ驚いたけど：

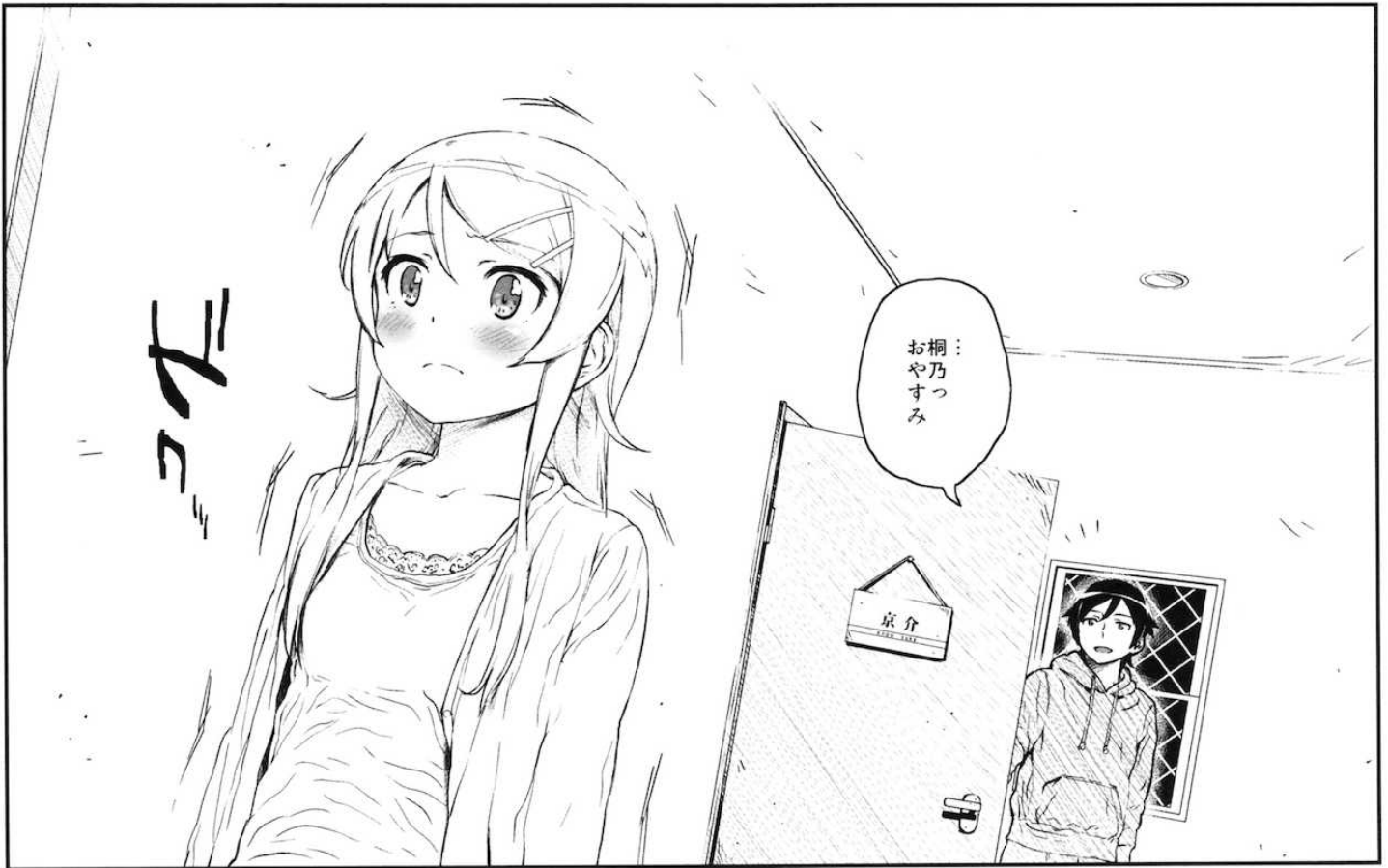
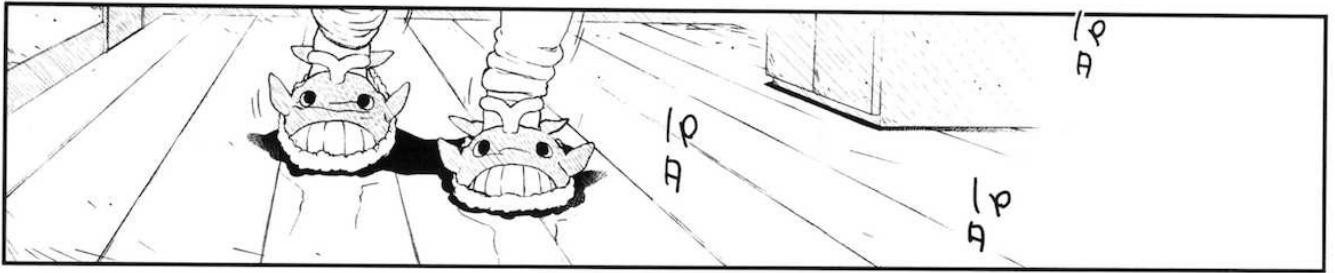


指輪もあつさり返してきて：
あれで俺たちは普通の兄妹に
戻った――

ってなれてたら
もう語ることはなかった
のかもしれない：

でも…そうじゃなかった
んだよな…
俺たち兄妹の話には
続きがあつたんだ

これは：俺と桐乃が二人きりの
結婚式を挙げた：そのあと――
俺たちの話を知ってる人には
卒業式と『オタクっ娘あつまれ』の
オフ会の間にあった出来事って
言えば分かりやすいか？
そのときの話を少し：語っていかうと思う





結婚式を終えて
桐乃の態度が急に
おかしくなったんだ

...



俺が話しかけても目を
合わせしてくれなくなつて
なつちやっつたんだよ

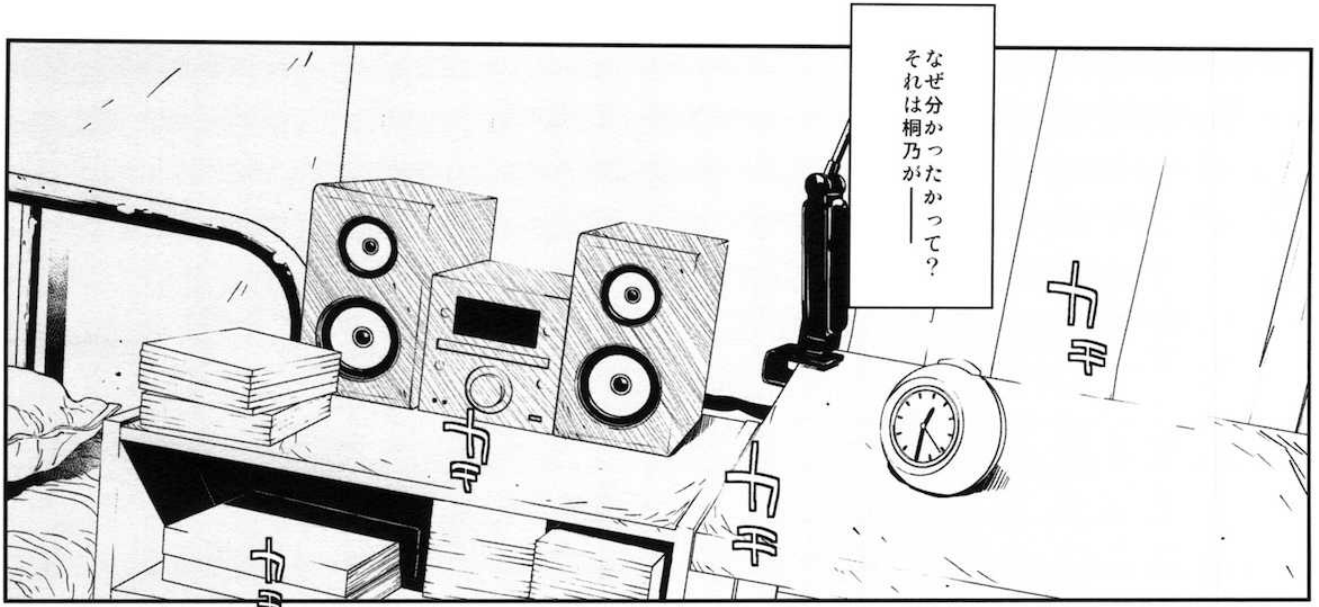
...



でも...嫌われてるわけ
じゃないってことは
すぐに分かった

す...

クワッ



なぜ分かったかって？
それは桐乃が――

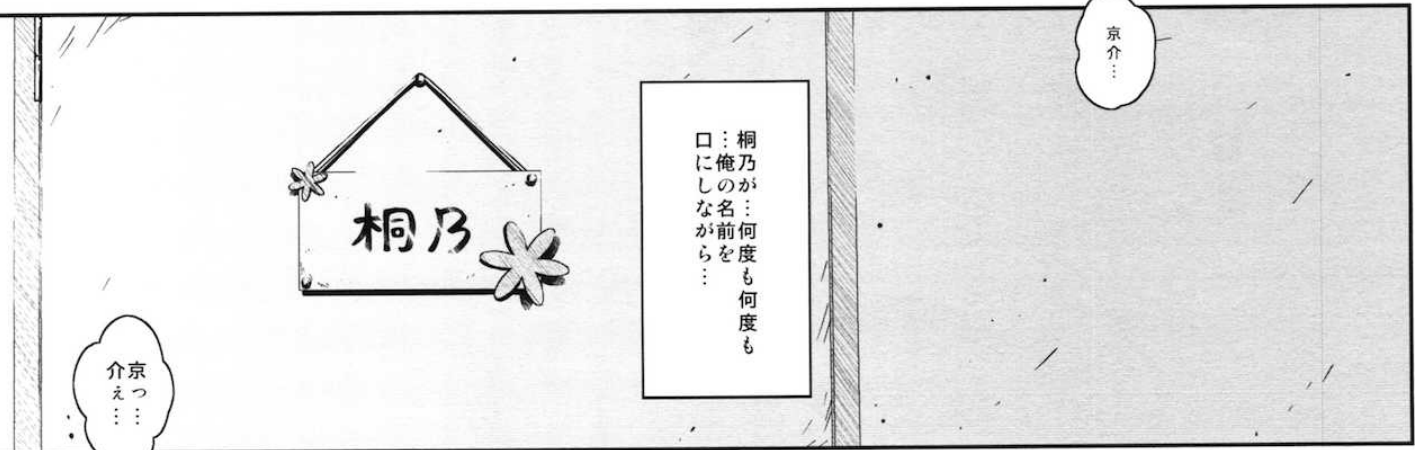


京…介っ

…介…



今日もか…



京つ…
え…

桐乃が…何度も何度も
俺の名前を
口にしながら…

京介…

オナニーをするように
なっていたからだ
しかも卒業式の晩から
毎日欠かさずに…

京…介っ

このうっすい壁のせいで
桐乃がマンコ擦る
クチュクチュって音まで
はつきり聴こえるんだぜ？
鈍い俺でもさすがに気付いたよ



京…介え

…京介っ

おま…



ぎよっ…
うっ！



セックスしたときに
桐乃のイクところ
見ちゃったからさ…
あの顔が何回も
思い出されて…

んんっ…!!

んんっ!!

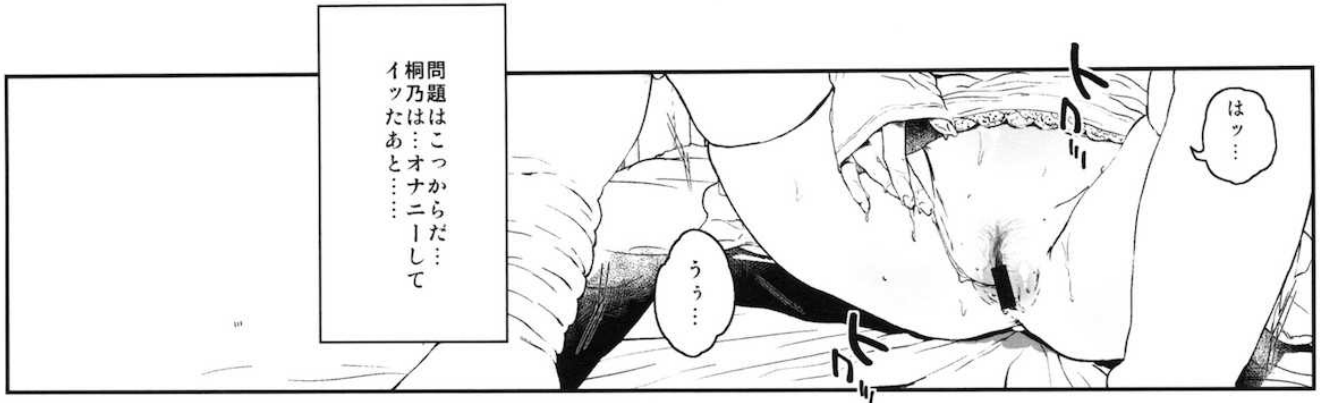
寝られたもんじゃねえよ！
マジでこんときの俺は
すっげえ寝不足だった！

はあ…

はっ

でも…それだけだったら俺も
見て見ぬフリするさ
桐乃のオナニーをやめさせる
権限なんて俺にはないしな

はあ…



問題はこつからだ…
桐乃は…オナニーして
イッたあと…

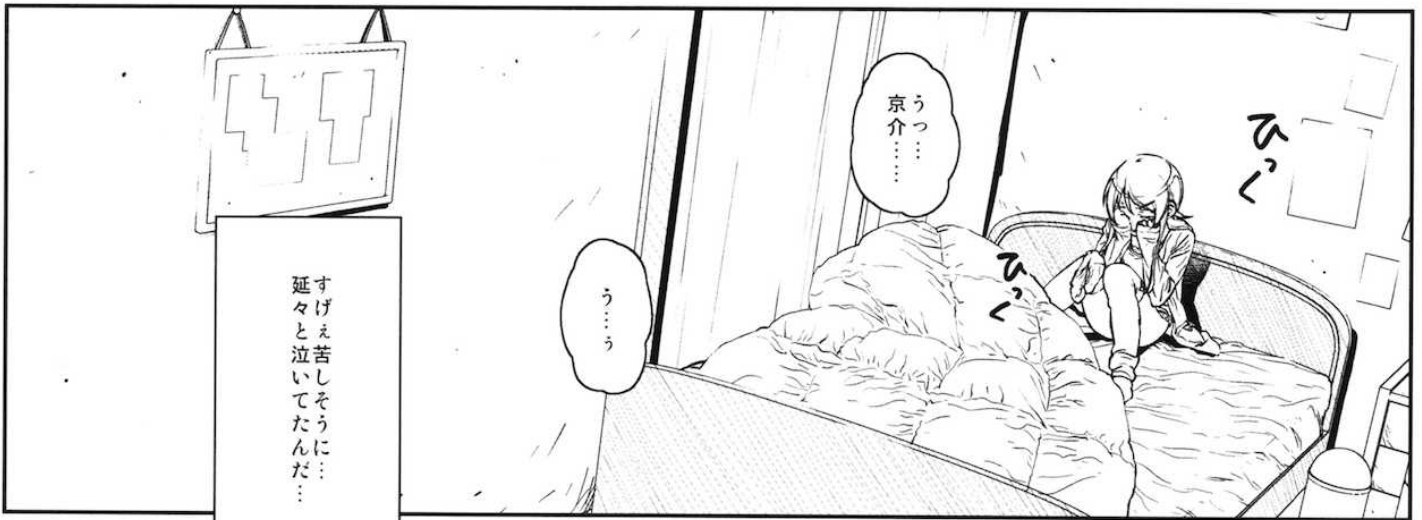
はッ…

うう…



すっげえ辛そうな
声で泣くんだよ

うう…っ



うっ…
京介…

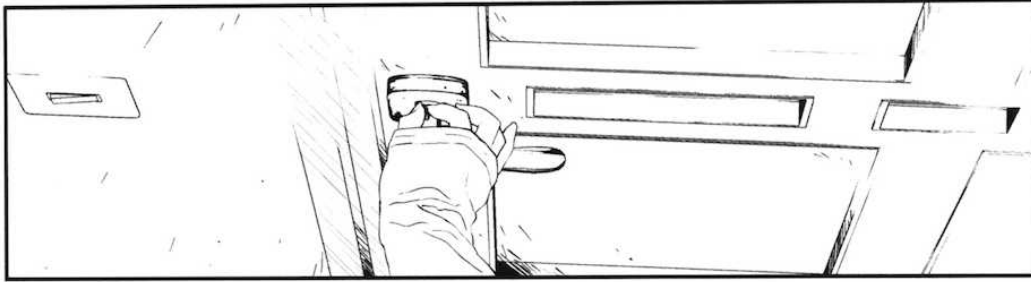
う…う

すげえ苦しそうに…
延々と泣いてたんだ…

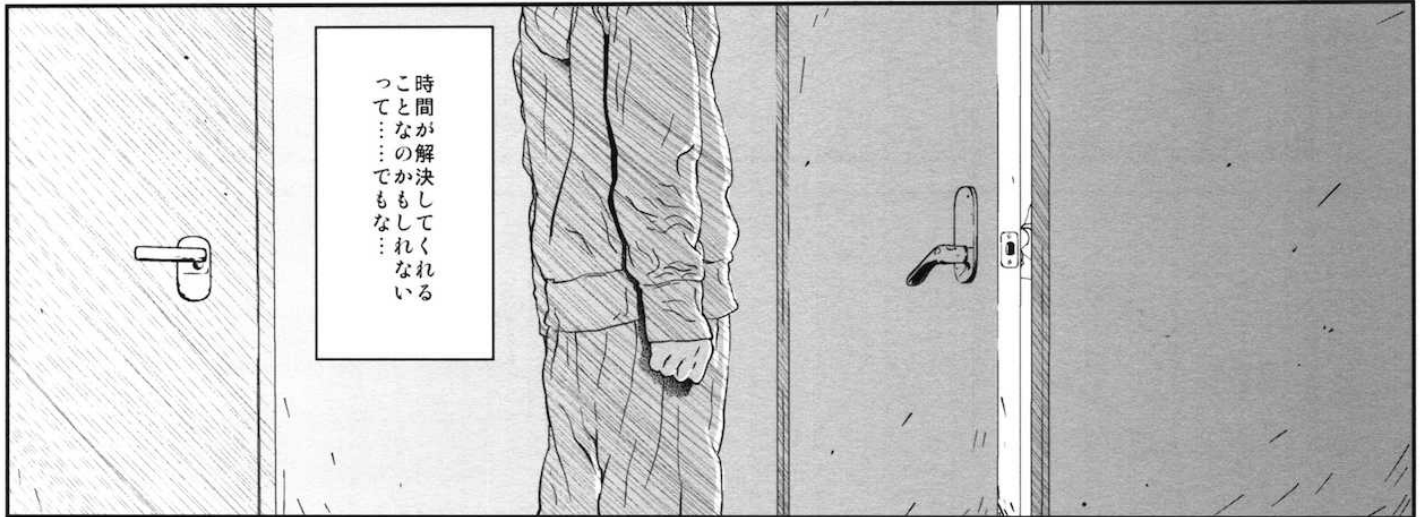


あーッ
もう限界だ!!
耐えられん!!





お互い嫌いになって
 別れたわけじゃ
 ないからな...
 こうなることも
 仕方がない気はしていた



時間が解決してくれ
 っことなのかもしれない
 ...でもな...



桐乃が辛そうにして
 耐えられねえんだよ...俺は！

そしてその原因が自分に
 あるとしたら...
 俺がなんだろか...
 いけないだろうか？



何より...このまま
 ほつといたら
 そんが壊れてしまう...
 桐乃が気がしたんだ



言避さ
つてんでい
てしょ!

だから:
何で俺のこ
と避
けてんだ
って

カチ

カチ



ったく:
さつきから何回
このやり取り!
取り!

避
けてんじやね
えか
俺のこ
と:

俺のこ
と避
して:
毎晩オナ
ニして
し終
わつたら延
々
泣
いてよ:

どう考
えても
普通
じゃね
えだろ



.....

あんた
あたしの部
屋に
聞き耳
立ててた
ってこと?

そ
うい
うこ
とや
めて
欲
しい
んだ
ケド
フ
ラ
イ
バ
シ
ー
の
侵
害
じ
ゃ
ん



話
逸
ら
す
ん
じ
ゃ
ね
え
よ:
つ
ー
か
あ
ん
な
で
け
え
声
出
し
て
た
ら
聞
こ
え
ね
え
わ
け
ー

も
う
付
き
合
っ
て
る
わ
け
じ
ゃ
な
い
ん
だ
し
:
ほ
っ
と
い
て
よ
:



ねほつとけ
ねえよ!!



そんな辛そうなの顔してるお前を...
ねえだろ...
...

わっ



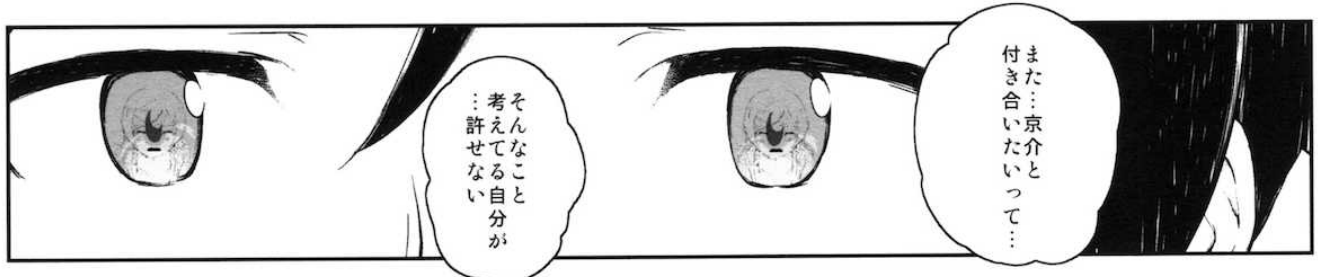
だって...
だって...


...




ああするしかないじゃん...
...

京介の顔見たら...
また... 付き合いたって...
思っちゃうんだもん...






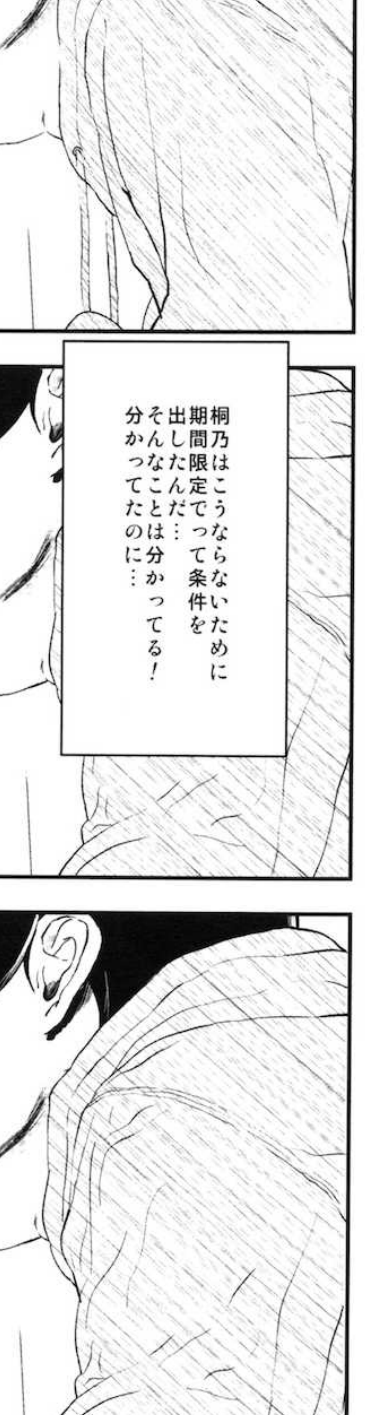
このときの俺の行動が正しく
なかつたってことは自分でも
よく分かつてる



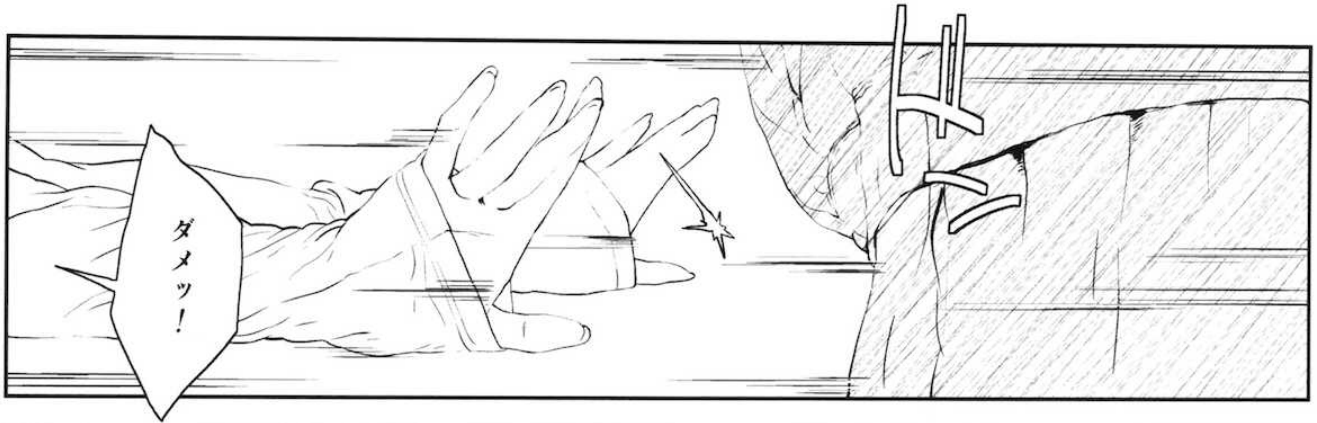
「俺たちはもう恋人同士
じゃねえんだぞ」って
突き放すのが兄貴としての
俺がとるべき正しい
行動だったってことはな…



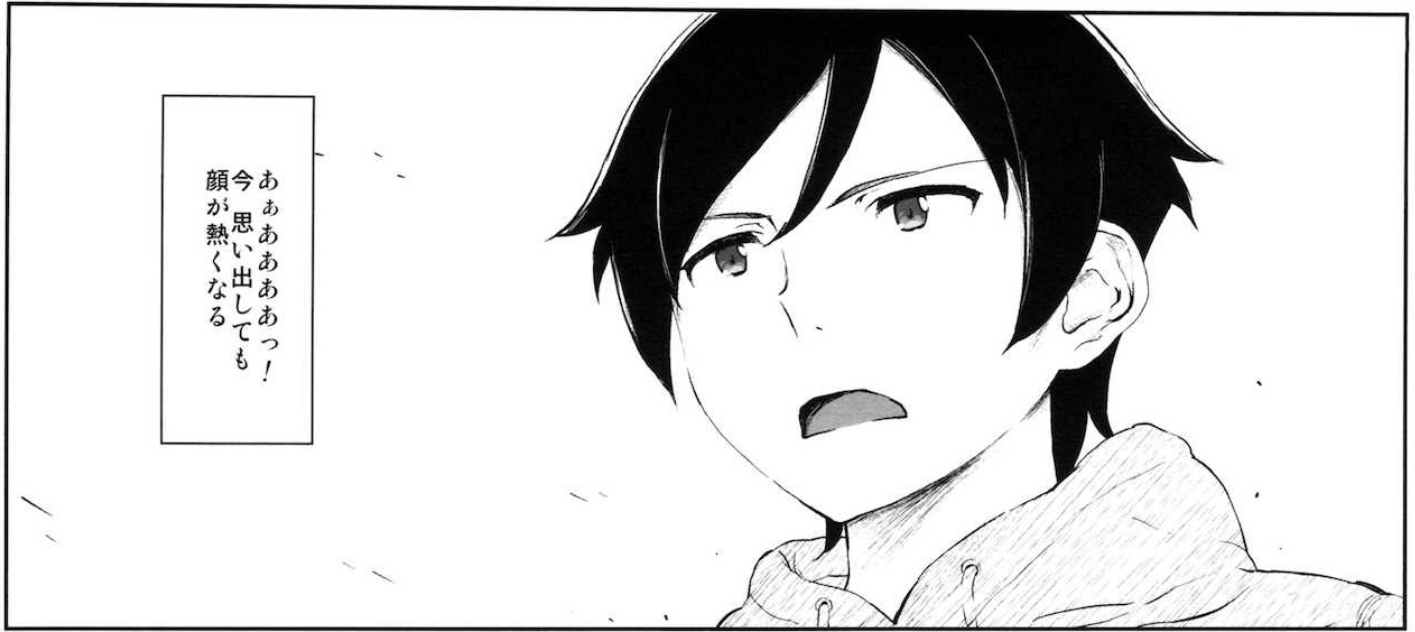
桐乃はこうならなかったために
期間限定で条件を
出したんだ…
そんなことは分かつてる！
分かつてたのに…



俺も桐乃と同じ
気持ちだ…
まだ桐乃と恋人同士で
思っちゃってたんだよ







あああああつ！
今 思い出しても
顔が熱くなる

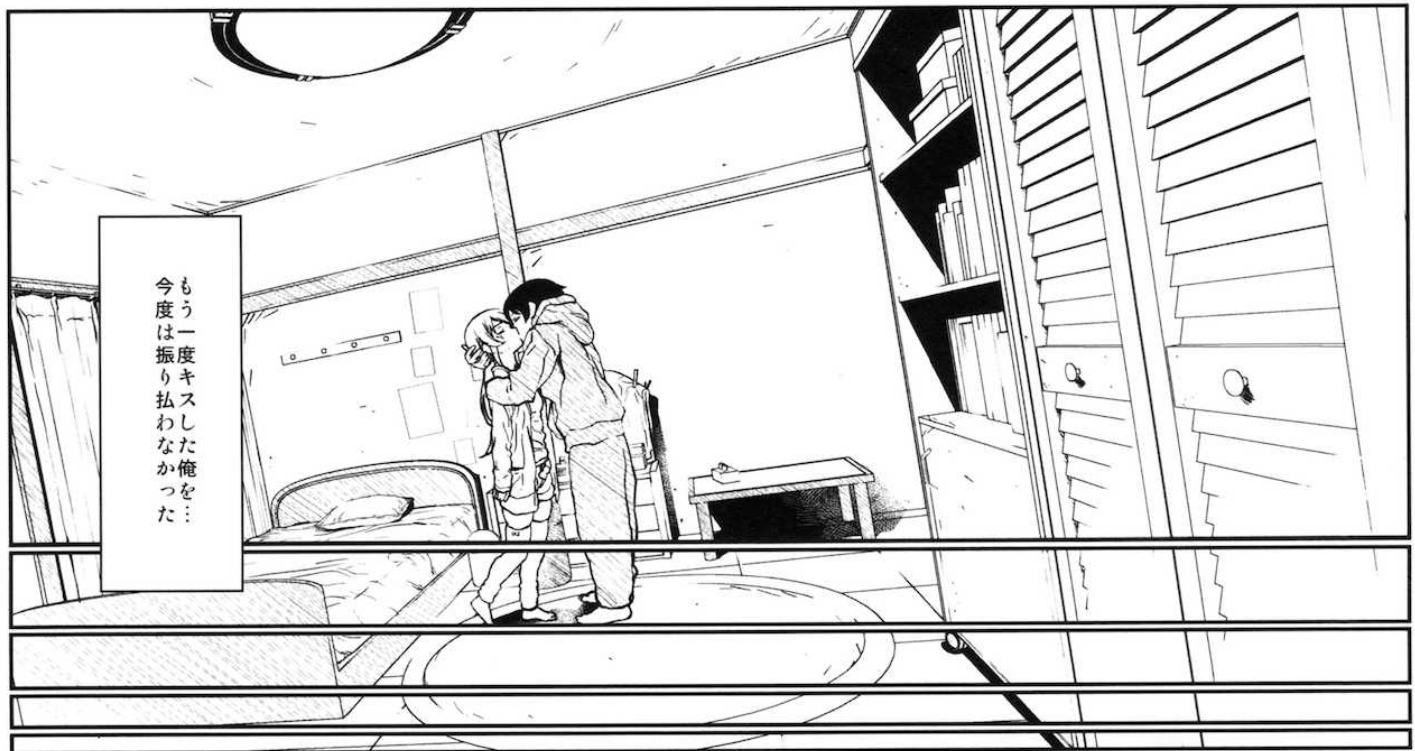


あんなセリフ：俺みたいな
地味な奴が言っても
まったく格好がつかないなら
ああ：御鏡あたりなら
カッコよく決めそうだし：

でも：それを聞いた
桐乃は：笑うことも
馬鹿にすることもせず：



ただ涙を
落としながら
何度も「バカ！」
と呟き：



もう一度キスした俺を：
今度は振り払わなかった



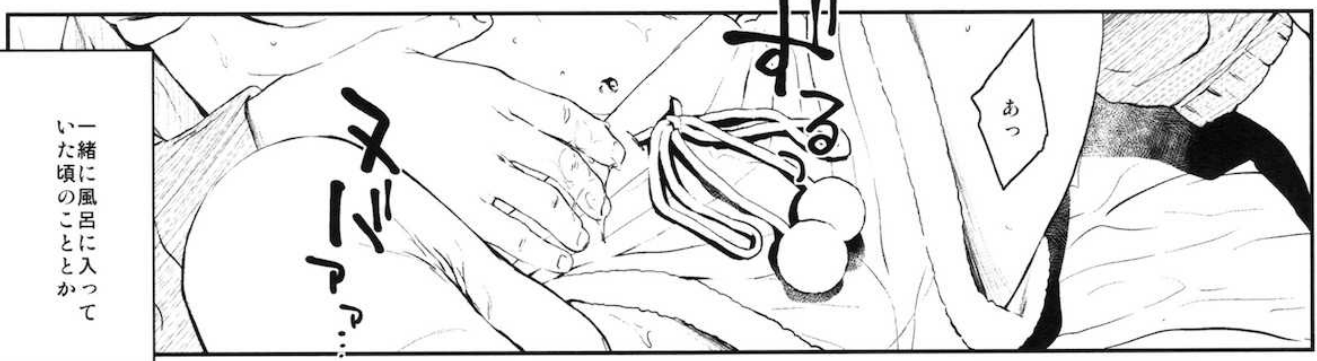


当たり前のことだけど桐乃の体はガキの頃とは変わっていて

胸はすげえデカくなってるし下もそのまマン毛がしっかり生えててよ



大人になった桐乃の体の色んなことを考えていたや：思い出して



一緒に風呂に入っていた頃のこともか

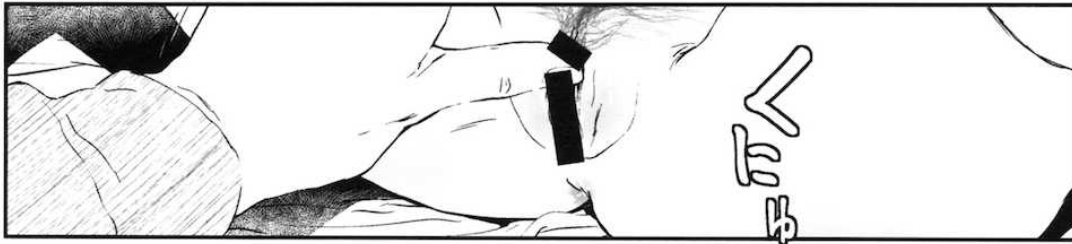


洗濯物の中に今まで見つけた子供用のブラを

桐乃のパンツでオナニーしちゃったときのこともか



あれは桐乃と一悶着
あつてあいつの胸を
触ってしまった
その夜のことだ

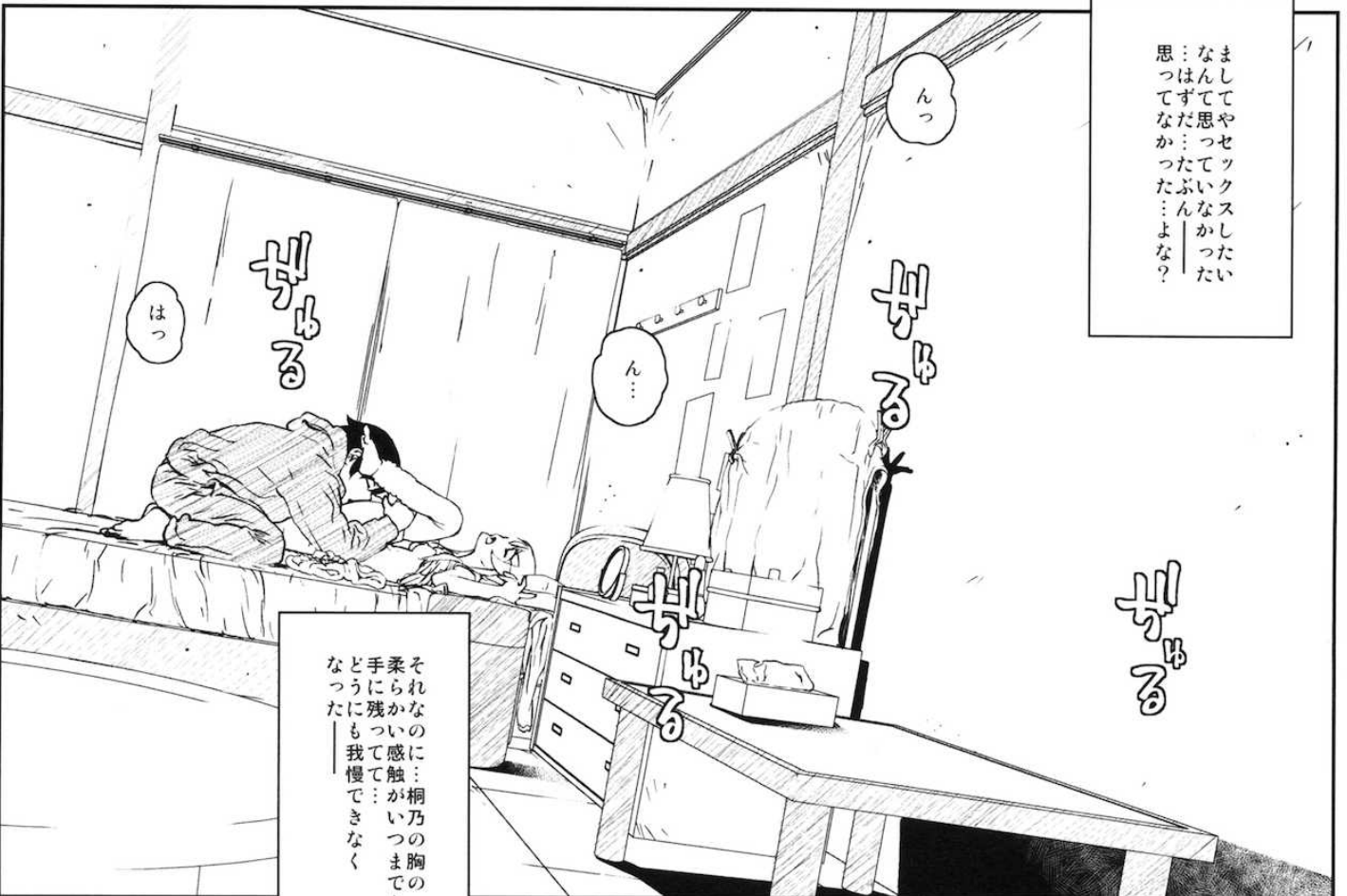


沙織のヤツが箱で
紛らわしい箱で
とんでもないもんで
送ってきてもえもんで
あんなことにそれ



あつ!

わわわわと触った
あのとき俺は桐乃に
対して恋愛感情とか



ましてやセックスしたい
なんて思っていない
思ってたぶんかな
思ってたぶんかな
思ってたぶんかな

それなのに桐乃の胸の
柔らかい感じがいつまでも
手に残ってて
どうにも我慢できなく
なった



俺は：エロゲーの影響で
女の子のマンコは甘くて
女の匂いがするんだと
思っちゃったよ
そういう表現よく出て
くるじゃん？

んっ！

がぶる

がぶる

がぶる

んっ



でも実際は全然そんな
ことはなかったよ
桐乃のパンツは今まで
臭いだことがないんだ
生臭い臭いがしたんだ

あっ！

がぶる



通り過ぎるだけで
すげえいい匂いがして
部屋もあんな甘い香り
がする桐乃からは想像も
できないその臭いを

待っ… 介っ…
ト… トイ…

がぶる

んっ



んっ!!

!?

俺はオナニーをした

桐乃のそのギャップに
どうしようもなく興奮して…
桐乃の裸を…桐乃にエロい
ことをする妄想をして
オナニーしちゃったんだ

し
あ
あ
あ



あ…



あ…

あ…

あハハハ

あハハハ



しかも…一回だけじゃ
なくて…
人生相談で桐乃との
距離が近づくたびに…

京…介…
見…ない…で…



それまで知らなかった
桐乃に触れるたびに…
俺は同じことを
繰り返して

…



反省してる!
桐乃の知らないところで
桐乃の最低なことをしたって…
だからこの件がどうなったかは
あとでちゃんと話そうと思う

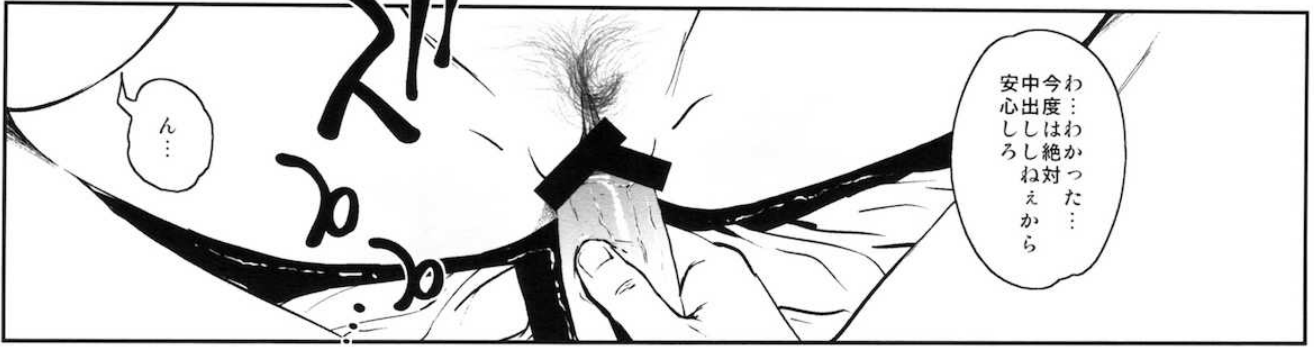
桐き
乃!

!?



まっ…待って
京介

!?



わ：わかった！
今度は絶対ねえから
安心しろ

んっ



んっ

あやせによれば…
桐乃は相当な人数の男から
言い寄られてたって話だった



そりやそうだよな…
家族の俺でさえ
見惚れてしまう可愛さだ
他の奴らからはそれ以上に
可愛く見えているんだろう

はあ…

あ…

あっ

あっ

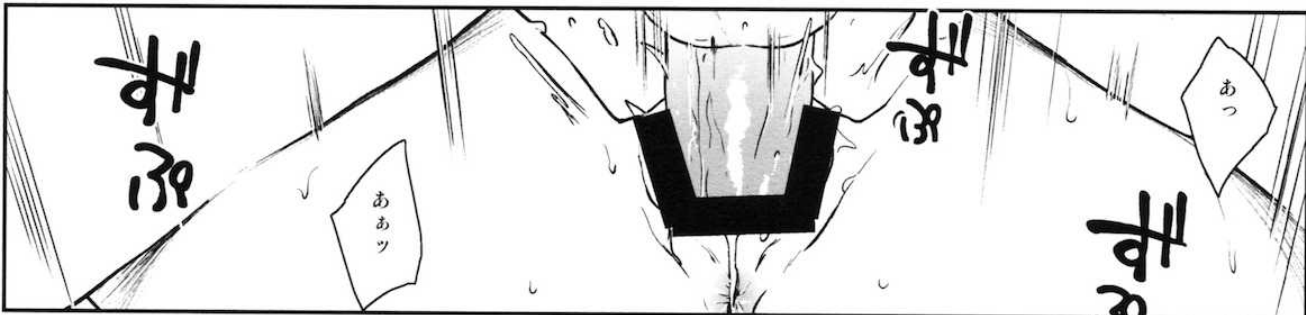
あっ



んあ…

モデルやらデザイナーやら？
もいたとか言ってたな
…今思い出してもあんま
良い気はしねえ…

あっ



あッ

あッ



でも、そんな話を聞いて
いたから…俺は余計に
こう感じたのかもしれない—

京…介…



介京っ…

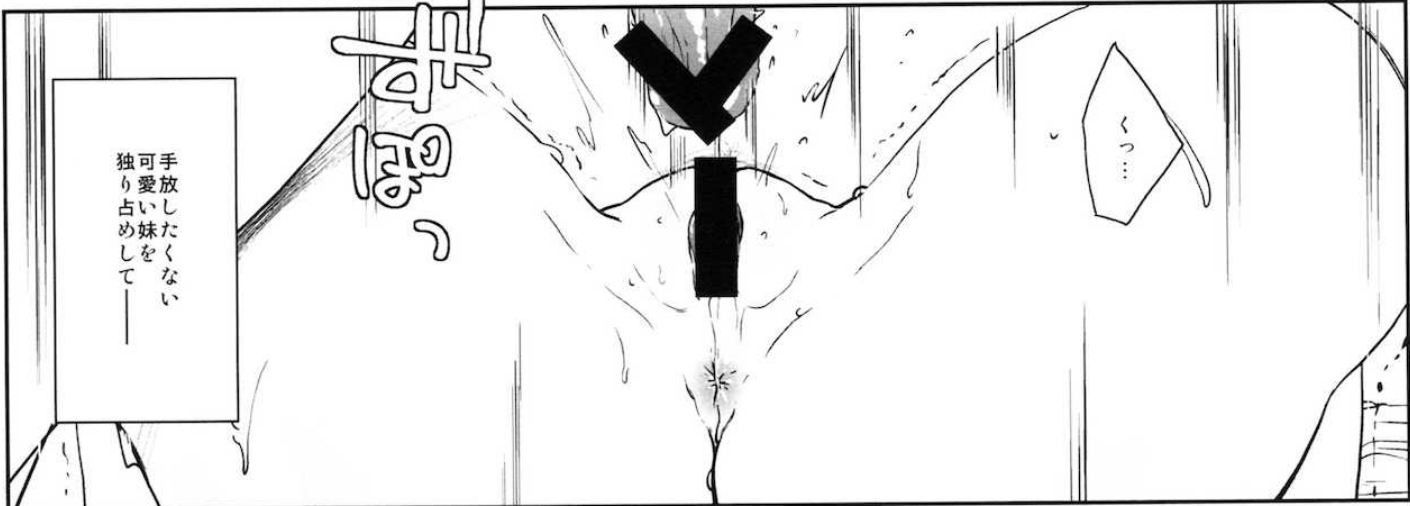
…京介っ

桐乃と付き合って
…キスして
…セックスして…
誰も見ることがない
桐乃の喘いでる姿を見て…



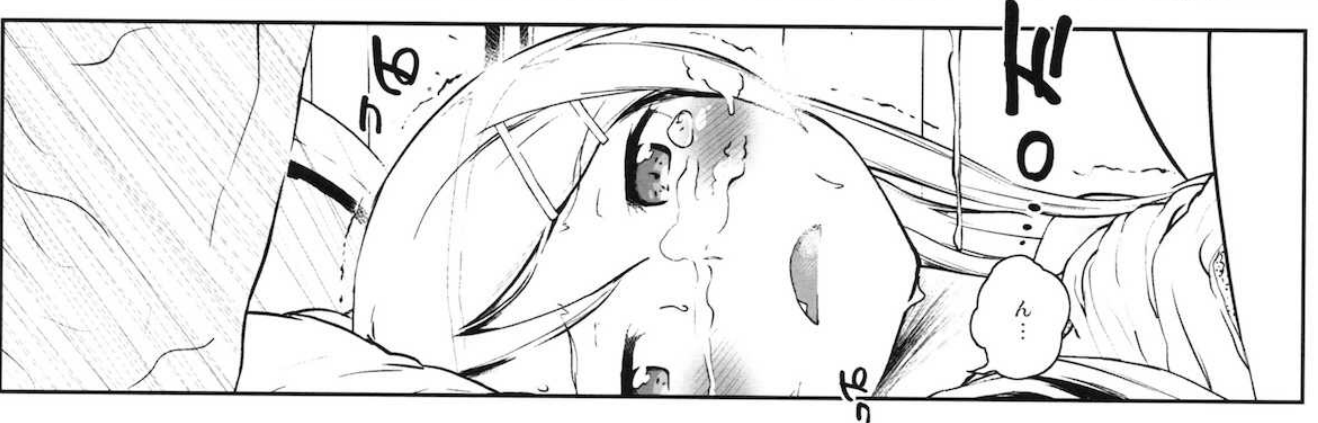
き…
桐乃っ…

俺は今までにない
くらいに優越感を
感じている



くっ…

手放したくない
可愛い妹を
独り占めして





もっ...として

は...あ...

は...あ...

は...あ...



...え?

もう...やだ...
何も...考え...
たく...ない...
兄妹だから...とか
そういうこと...か
何も考えたくない

京介のことしか...
考えたくない...



だから...
もっ...として...

他のこと...何も
考えられないくらい...
頭の中...京介で
いっぱいにして...

は...あ...

は...あ...



...桐乃

は...あ...

この二年間で
桐乃の弱い姿は何度も
見てきたのに...
ここまで弱い部分に
触れた初めてだったに



実の兄を本気で好きになっ
てしまった桐乃の気持ち



京介っ！

京介え！

それはダメなんだって…
誰にも言っちゃダメなんだ
…
よめられていることを
やめられないかった桐乃の気持ち



もっと...

京...介...
もっ...と...



墮落していく理想の兄貴に失望して...
それでもまた俺のことを
好きになってくれた桐乃の気持ち...

んっ!

それを...ようやく
理解できた気がした

んっ!!



桐乃!!

アッ

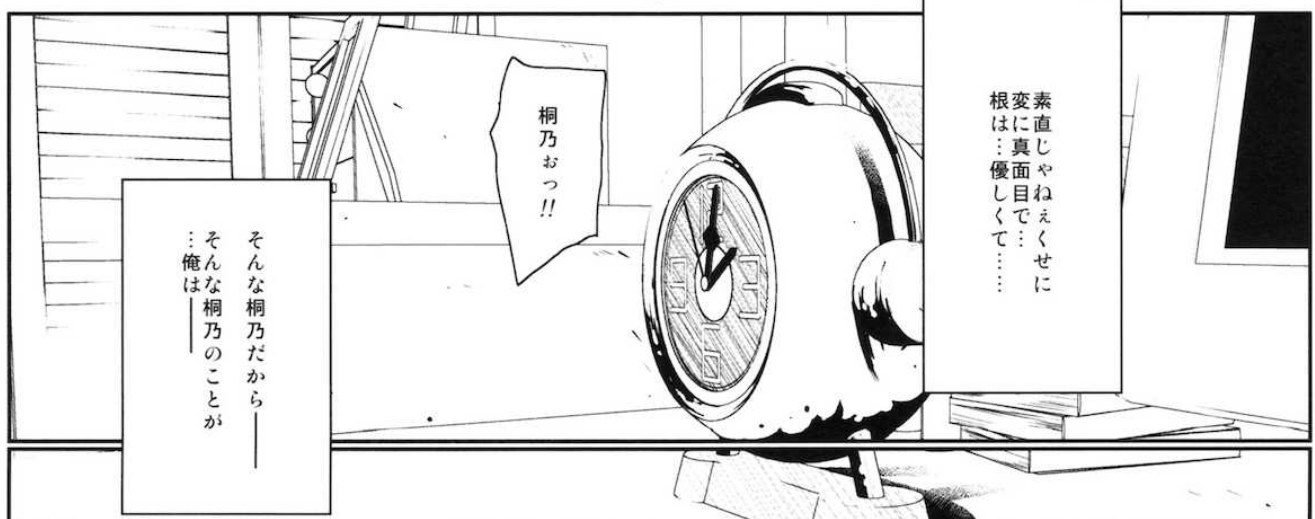
俺だったら絶対
耐えられねえな...
精神イカれて
おかしくなってるわ



桐乃...

お前は前前の憧れていた
高坂京介よりも...
ずっとずっと...
すごいやつに...
なれてるよ...桐乃...







桐乃大丈夫か？

もん…
もう平気



っ！か気持ち失うってな
演技…エロゲーみたいだな
じゃねえよな…？

なっ!?!
そんなこと
するわけ
ないでしょ!?!



そんな余裕…
ないし…

頭の中…京介で
一杯になつて
他の事何も考えら
れなくなつて…
気付いたら…



桐乃…お前
とんだけ俺のこと…

う…うっさい！
調子のんない！
バカっ！



良かった...
桐乃だ...



え？

お前に告白して...
付き合ったこと...
セックス...
したことも...
後悔しかけてた...



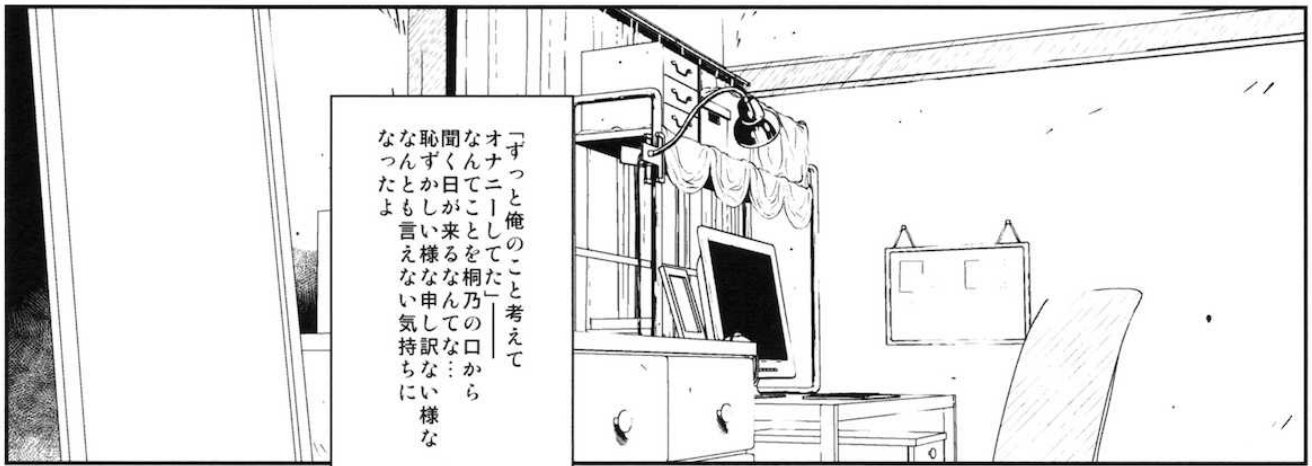
別れてからお前が
俺のこと避けるように
なって...
また昔みたいに...
話せなくなってる...

ずっとこのままに...
なつちやうじやないか...
ってすげえ...
怖かったんだよ俺...

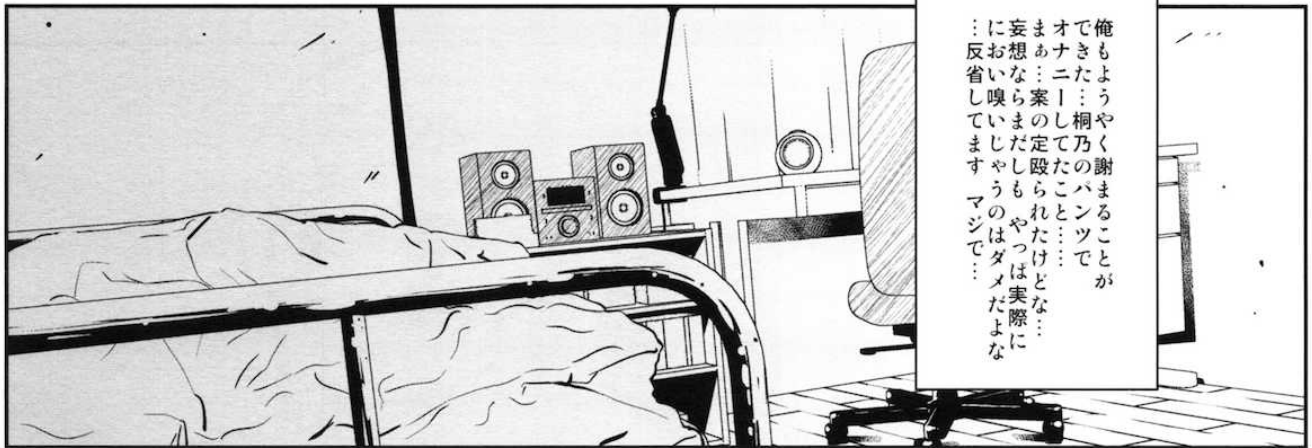


.....ごめん

それから... 俺と桐乃は...
付き合ってたとき...
たくさん話したんだ...



「ずっと俺のこと考えて
オナニーしてた」
なんてことを桐乃の口から
聞く日が来るなんてな
恥ずかしい様な申し訳ない様な
なんとも言えない気持ちに
なっちゃったよ

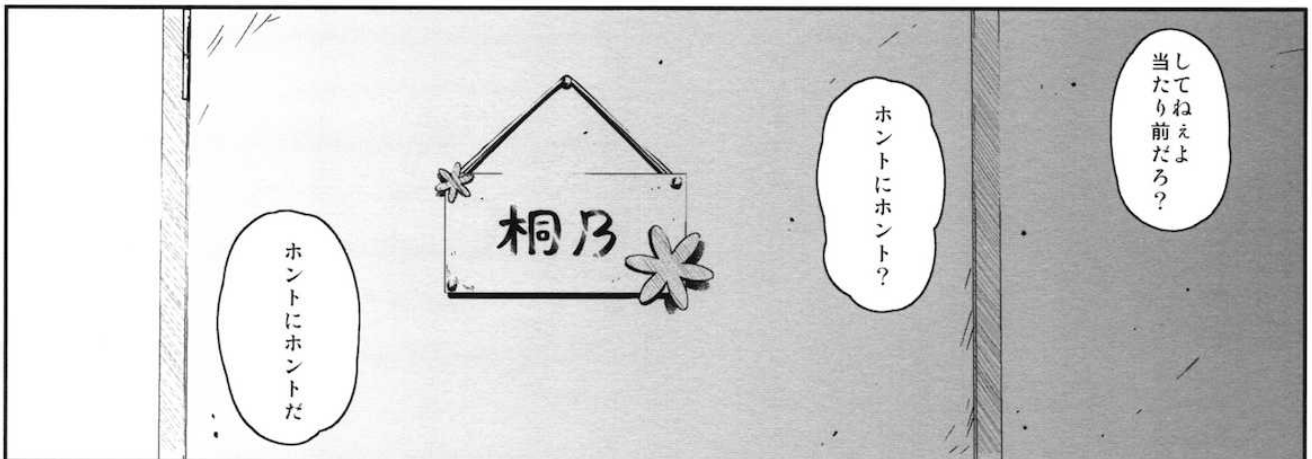


俺もようやく謝まることが
できた…桐乃のパンツで
オナニーしてたこと…
まあ…案の定殴られたけどな…
妄想ならまだしも…やっは実際に
…おい嗅いじやうのはダメだよな
…反省してます マジで…



感慨にふけてた俺に
桐乃はこう切り出したんだ
「ねえ…京介…あたしとエッチ
したこと…後悔してない？」と…

ほんの数日話せなかったが
すげなの懐かしくて…
そんなやり取りが



ホントにホントだ

ホントにホント？

してねえよ
当たり前だろ？





親父にバレりや
土下座しても許して
もらえねえだろうし
その後のこと
どうなるかわかんねえ
でも……

兄妹でこんなこと
続けたら……お前が
言っただけなら全部
バラバラになるかも
しれない



お前のことだけは
絶対に守ってやる！
だから……桐乃
お前のことをまだ
好きでいさせてくれ！！

うえ……
恥ずかしすぎる……

なんの根拠もない
無責任なセリフは
それに桐乃は――



か
あ
あ

はい

眩しいくらい
の笑顔で
そう…
応えてくれた



高慢で：横暴で：
いつも俺を振り回して

好きなことには一直線
—いつも全力で頑張っ
て一生懸命で：

素直じゃねえくせに
変に真面目で：
根は：優しくて：：

そんな桐乃だから—
：そんな桐乃のことが
：俺は大好きなんだ



星くず☆ナミダ②


発行日:2013.12.31

発行:†NIL†

発行者:フジバヤシ春

印刷所:ねこのしっぽ

MAIL>>> hal.0.fujibayashi@gmail.com



■ore no imouto ga
konnani kawaii wake ga nai